

《スレイプニルにまたがる オーディンのタピスリー》

作 家 ガーラル・ムンテ

制作年 1914年

技 法 羊毛

所 蔵 スウェーデン国立美術館

ノルウェーの画家ガーラル・ムンテ(1849-1929)は、装飾美術の世界で代表的なひとり。

本作は、羊毛を繊細に編み込んで、タピスリー(壁掛けの布)に仕上げている。描かれているのは、戦いの神オーディンが8本の脚をもつ馬スレイプニルにまたがって海を駆け抜ける場面。北欧神話には多くの神々が登場するが、その中でもオーディンは戦争や死、知恵を象徴する主神である。太い輪郭線で、あえて平面的に描くのがムンテのスタイル。シンプルな表現が、「ファイナル・ファンタジー」などRPGゲームの一場面を見るかのよう。



SOMPO美術館
Sompo Museum of Art



《ユルステルの春の夜》

作 家 ニコライ・アストルプ

制作年 1926年

技 法 油彩・カンヴァス

所 蔵 ノルウェー国立美術館

ニコライ・アストルプ(1880-1928)はノルウェーのモダニズム絵画を代表する画家。ユルステルはアストルプが生涯の大半を過ごした場所で、山々や湖、フィヨルドといった豊かな自然に囲まれ、民間に伝わる工芸や音楽などの文化的伝統を色濃く残していた。アストルプは、同じくノルウェーの画家エドヴァルド・ムンクに感化され、独特の鮮やかな色彩を用いて、ユルステルの自然や日常生活を描いた。

本作は昼間のように見えるが、北欧に特徴的な白夜の風景である。画家の妻が収穫しているルバーブは、ほどよい甘みと酸味が特徴で、ジャムなどにして親しまれている。



SOMPO美術館
Sompo Museum of Art